

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成28年12月22日 (2016.12.22)

【公表番号】特表2016-502453(P2016-502453A)

【公表日】平成28年1月28日 (2016.1.28)

【年通号数】公開・登録公報2016-006

【出願番号】特願2015-538505(P2015-538505)

【国際特許分類】

B 0 1 J 19/28 (2006.01)

B 0 1 F 9/08 (2006.01)

B 0 1 F 11/00 (2006.01)

B 0 1 F 9/02 (2006.01)

B 0 1 F 7/04 (2006.01)

B 0 1 F 15/06 (2006.01)

B 0 1 F 7/02 (2006.01)

【F I】

B 0 1 J 19/28

B 0 1 F 9/08

B 0 1 F 11/00 B

B 0 1 F 9/02 Z

B 0 1 F 7/04 Z

B 0 1 F 15/06 Z

B 0 1 F 7/02 D

B 0 1 F 7/02 Z

【手続補正書】

【提出日】平成28年10月28日 (2016.10.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

管型反応装置であって、

プロセス材料の連続供給及び排出を可能にする連結部を備えた容器を有し、前記容器の本体は、前記プロセス材料を混合するよう往復動アーク状態で回転可能であり、

前記管型反応装置内には、ミキサが設けられていることを特徴とする管型反応装置。

【請求項 2】

前記ミキサは、前記反応装置本体に対して固定されたシャフトに取り付けられている請求項 1 記載の管型反応装置。

【請求項 3】

前記ミキサは、前記反応装置本体に対して自由に回転することができるシャフトに取り付けられている請求項 1 記載の管型反応装置。

【請求項 4】

さらに、内側そらせ板 (2 3) を備えている請求項 1 乃至 3 の何れか 1 項に記載の管型反応装置。

【請求項 5】

前記反応装置のチャンネルの全長が、そのチャンネルの直径の少なくとも 3 倍である請求項

1 乃至 4 の何れか 1 項に記載の管型反応装置。

【請求項 6】

反応であって、

プロセス材料が所定の反応条件で動作している管型反応装置を連続的に通過し、前記プロセス材料が前記管型反応装置を通過しているときに前記管型反応装置を管の長手方向軸線回りに往復動アーク状態で回転させて、前記プロセス材料が、前記管型反応装置を通過する際に半径方向の混合を生じさせるように前記管内に設けられたミキサによって混合されることを特徴とする反応。

【請求項 7】

前記プロセス材料が前記反応装置を通過する流れは、栓流である請求項6記載の反応。